

報告者	学科名	看護学科	職名	准教授	氏名	實金 栄
研究課題	地域在住高齢者の人生会議（アドバンス・ケア・プランニング）における医療・ケア方針の表明への関連要因の検討					
研究組織	氏名	所属・職		専門分野	役割分担	
	代表	實金 栄	保健福祉学部・准教授	地域看護	研究計画，実施，総括	
	分担者	井上 かおり	保健福祉学部・助教	老年看護	実施，成果発表	
		難波 香	保健福祉学研究科 看護学専攻	老年看護学	計画，実施，成果発表	
名越 恵美		保健福祉学部・准教授	成人看護学	実施，成果発表		
研究実績の概要	<p><b>【研究目的】</b> 本研究は，中山間地域で高齢化率40%以上の地域における高齢者の医療・ケアに対する意思表示への関連要因を検討することを目的に行った。</p> <p><b>【研究方法】</b> 調査期間は2021年11月～2022年1月。調査票は456人に配布し，220人（48.2%）から回収でき，回答に不備のない207人（64.1%）を分析対象者とした。調査項目は，独立変数として性，年齢，主観的健康観，同居家族の有無，意思表示を希望する者との居住距離，地域への信頼（地域信頼），近所の人との交流（近隣交流），地域での活動参加（活動参加），往診医の有無，地域ケア充足度，家族等からの活動サポート，認知症に対する知識，援助に対する抵抗性（援助抵抗性認知），手段的・情緒的扶養意識を，従属変数として，医療・ケア方針の身近な人への伝達の有無（意思表示伝達）で構成した。分析は，二変量解析（<math>\chi^2</math>検定，Mann-Whitney's U検定）および二項ロジスティック回帰分析を行った。統計解析ソフトはSPSS27を使用した。</p> <p><b>【倫理的配慮】</b> 本研究は，所属機関の倫理審査委員会の承認を得て実施した（受付番号2144）。</p> <p><b>【結果】</b> 二変量解析の結果，性，年齢，往診医の有無，活動サポート，地域ケア充足度において有意差がみられた（<math>p &lt; 0.05</math>）。次に有意差のみられた変数を独立変数，意思表示伝達の有無を従属変数とする二項ロジスティック回帰分析を行った結果，活動サポートのみが有意な変数として採択された（OR=1.097 [1.0281.166]，<math>p=0.005</math>）。</p>					

<p>研究実績 の概要</p>	<p>【考察】 二項ロジスティック回帰分析では、活動サポートのみが有意な変数として採択されたが、二変量解析では、意思表示の有無は往診医の有無と地域ケア充足度による違いがみられた。医療・ケアに対する意向があっても、往診医の有無や地域ケア充足度と照らし合わせ、その意向を叶えることが困難と感じられたならば、その意向を表明しようと思えないかもしれない。活動サポートは、サポート提供者との関係性の認知的側面を示しており、心理的距離とも捉えられる。したがって単に居住の遠近ではなく、高齢者が「心理的安全性が保たれる」と認識するサポート提供者との心理的距離が意思表示に関連しているのではないか。したがって、アドバンス・ケア・プランニングにおいては、家族間の心理的距離を踏まえた支援が必要であろう。</p>
<p>成果資料目録 成果資料等があれば添付すること。</p>	<p>1) 實金栄，難波香，安藤亜矢子，井上かおり，名越恵美：地域在住高齢者の意思表示への関連要因の検討，日本老年看護学会第27回学術集会，2022.6.25-26，WEB開催（受理）</p>